

2018年10月18日 全9頁

## Indicators Update

# 2018年9月貿易統計

広範な国・地域で輸出数量が減少、  
特殊要因があるものの基調としても弱い

経済調査部  
研究員 廣野 洋太  
エコノミスト 小林 俊介

### [要約]

- 9月の貿易統計によると、輸出金額は前年比▲1.2%と前月（同+6.6%）からマイナス転換、一方、輸入金額は同+7.0%と前月（同+15.3%）からプラス幅が縮小した。貿易収支は1,396億円と3ヶ月ぶりの黒字となった。
- 輸出数量（大和総研による季節調整値）は前月比▲5.4%と大幅に減少した。地域別では、米国向け（同▲1.5%）、EU向け（同▲5.6%）、アジア向け（同▲2.3%）など総じて減少した。米国では、自動車の減少が大きかった。米国内の自動車販売は、9月単月では増加しているが趨勢としては軟調である。輸出の水準についても堅調であった2017年中ごろの水準を下回っている。EUでも自動車が大きく下げている。欧州の自動車販売については、9月からの新しい燃費試験の導入に伴い、8月に駆け込み需要が発生。9月には反動が出ており日本の輸出も影響を受けた可能性がある。アジアでは、鉄鋼が8月までは増加傾向となっていたものの、足下では大きく減少している。

図表1：貿易統計の概況（原系列、前年比、%）

	2018年								
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
輸出金額	12.3	1.8	2.1	7.8	8.1	6.7	3.9	6.6	▲1.2
コンセンサス									2.1
DIR予想									1.9
輸入金額	7.8	16.6	▲0.5	6.0	14.1	2.6	14.7	15.3	7.0
輸出数量	10.8	▲0.8	3.6	7.2	6.4	3.2	0.9	1.1	▲4.8
価格	1.3	2.7	▲1.4	0.5	1.5	3.4	3.0	5.4	3.7
輸入数量	3.3	13.8	▲4.2	2.1	6.6	▲4.5	4.0	4.4	▲2.7
価格	4.4	2.5	3.9	3.8	7.0	7.5	10.2	10.5	10.0
貿易収支	▲9,483	▲1	7,933	6,208	▲5,833	7,184	▲2,350	▲4,384	1,396
税関長公示レート	112.47	109.26	106.56	106.31	109.08	109.86	110.78	111.33	111.13

（注1）貿易収支は億円。税関長公示レートは円/ドルレート。

（注2）コンセンサスはBloomberg。

（出所）財務省、Bloombergより大和総研作成

## 輸出金額は数量要因によってマイナス転換

2018年9月の貿易統計によると、輸出金額は前年比▲1.2%と前月（同+6.6%）からマイナス転換、一方、輸入金額は同+7.0%と前月（同+15.3%）からプラス幅が縮小した。貿易収支は1,396億円と3ヶ月ぶりの黒字となった。

輸出金額を数量要因と価格要因に分解すると、数量要因は前年比▲4.8%と前月（同+1.1%）からマイナス転換した。自動車の輸出数量がマイナス転換したことが影響した。価格要因については同+3.7%とプラス幅が前月（同+5.4%）から縮小している。輸出価格については、医薬品の単価がマイナス転換したことが全体を押し下げた。

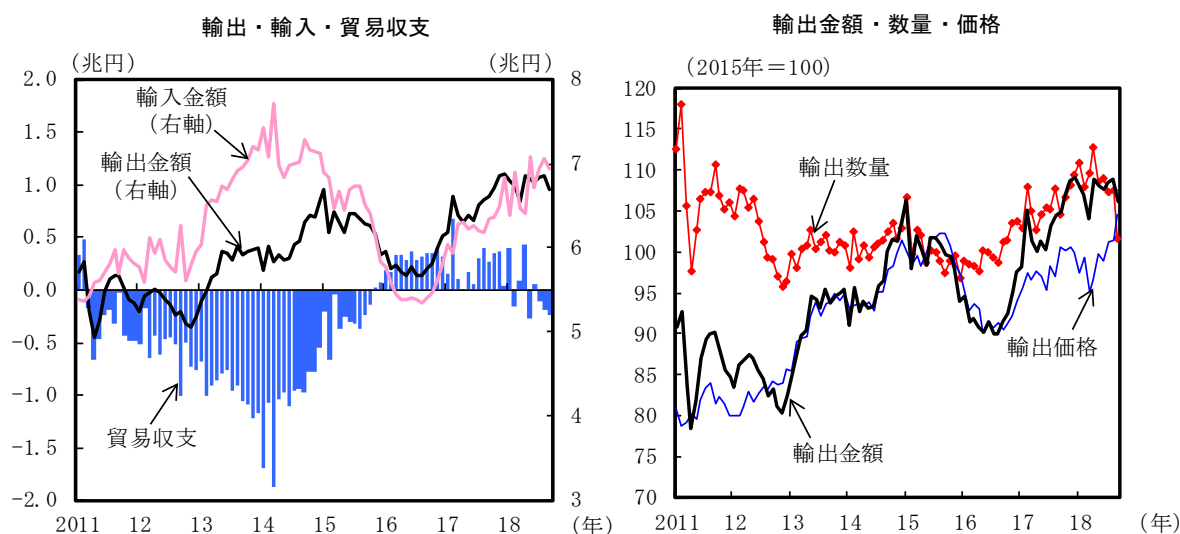
輸入金額を数量要因と価格要因に分解すると、数量要因は前年比▲2.7%と前月（同+4.4%）からマイナス転換している。価格要因については同+10.0%と前月（同+10.5%）からプラス幅が縮小している。

輸入数量を商品別に見ると、電話機が前月からプラス幅を大幅に縮小しており、こちらの影響が大きかったようだ。新型スマートフォンの販売開始が9月に控えていたことから8月に輸入が大きく増加していた反動とみられる。価格要因については、鉄鋼の前年比プラス幅の縮小が影響したものとみられる。

季節調整値で見ると、輸出金額は前月比▲2.5%、輸入金額は同▲1.7%となった結果、貿易収支は▲2,389億円と3ヶ月連続の赤字となった。

貿易収支については昨年末ごろから振れが大きくなっているが、これは主に輸入金額の変動によるものである。中でも原油及び粗油の数量の変動が大きく、原油価格や政治動向などによって輸入数量が影響を受けている可能性がある。

図表2：輸出金額・数量・価格、貿易収支（季節調整値）

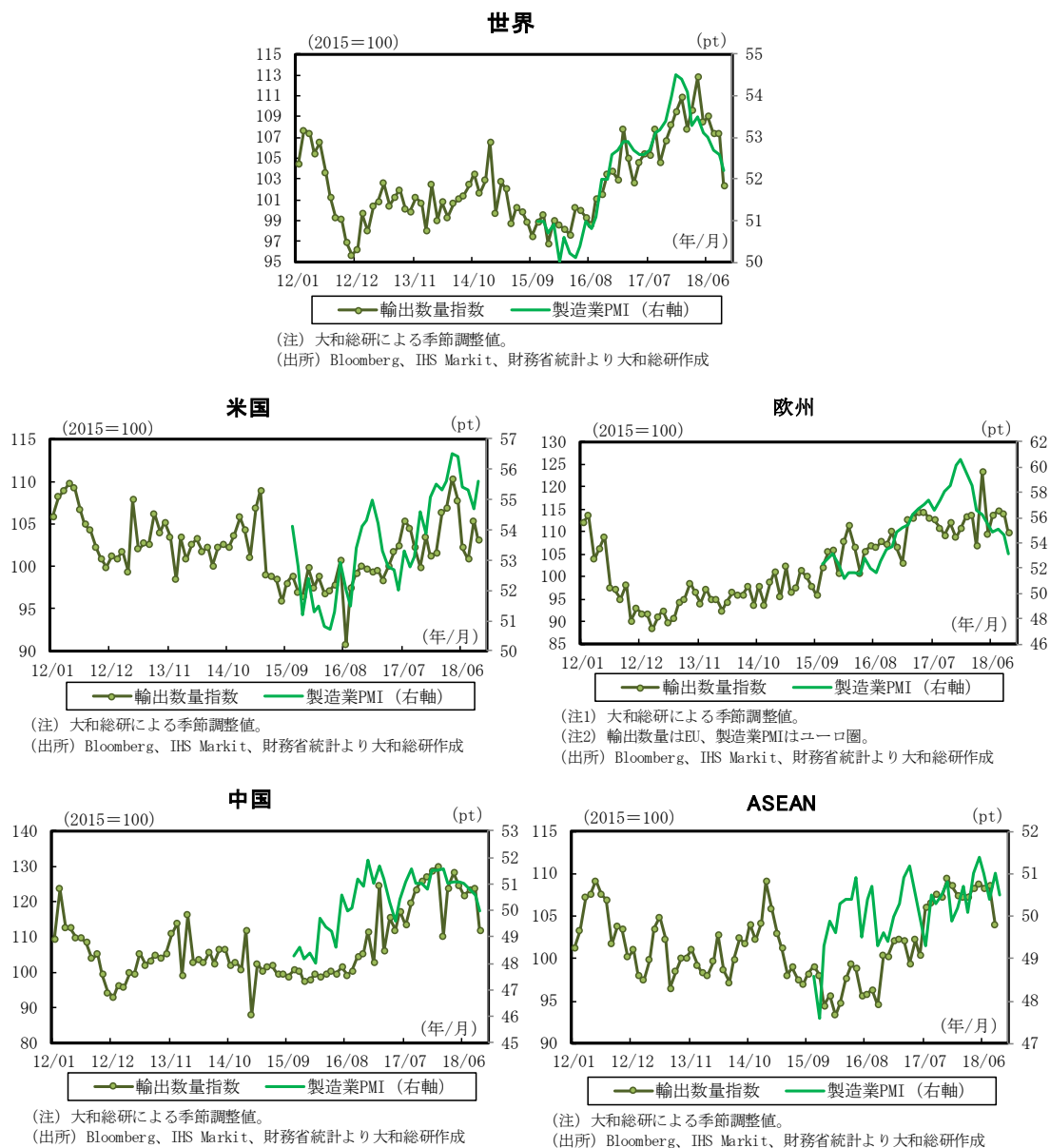


(注) 輸出数量、輸出価格の季節調整は大和総研。  
(出所) 財務省統計より大和総研作成

## 輸出数量は大きく減少、特殊要因はあるものの基調も弱い

輸出数量（大和総研による季節調整値）は前月比▲5.4%と大幅に減少した。地域別では、米国向け（同▲1.5%）、EU向け（同▲5.6%）、アジア向け（同▲2.3%）など総じて減少した。

図表3：世界の製造業PMIと輸出数量



米国では、自動車の減少が大きかった。米国内の自動車販売は、9月単月では増加しているが、趨勢としては軟調である。輸出の水準についても堅調であった2017年中ごろの水準を下回っている。また、5月から鉄鋼の減少が継続している。鉄鋼は2015年ごろから減少傾向であったが、米国の追加関税でさらに下押しされているようだ。EUでは自動車の減少が影響している。欧州の自動車販売については、9月からの新しい燃費試験の導入に伴い、8月に駆け込み需要が発生。9月には反動が出ており日本の輸出も影響を受けた可能性がある。アジアでは、鉄鋼が8月までは増加傾向となっていたものの、足下では大きく減少している。

また 9 月の輸出数量は、台風や北海道胆振東部地震の影響で一部自動車メーカーの生産が滞ったことや関西国際空港（関空）の閉鎖など特殊要因による影響で大きく減少した。データの制約上金額ベースの数字にはなるが、9 月の関空からの輸出金額は前年比▲58.0%（8 月：同▲0.1%）とマイナス幅が拡大した。品目別に数量を見ると半導体等電子部品のうち IC の減少が大きい。

なお、輸出数量（大和総研による季節調整値）を四半期ベースで見ると、7-9 月期の輸出数量は前期比▲4.2%である。7、8 月も軟調であったことに加え、9 月の大幅減の影響が大きい。すでに 2018 年 4-6 月期（同+0.6%）では、2017 年 10-12 月期（同+2.1%）や 2018 年 1-3 月期（同+1.3%）の増勢から鈍化していたが、足下では一層の減速となっている。9 月の大幅な減速については、先述したような特殊要因による影響もあるが、自動車をはじめとする世界的な需要の減少が根底にあるものとみられる。

## 中国の関税引き下げによる日本の輸出への影響は？

中国政府は7月に引き続き、11月1日から輸入関税を引き下げる。具体的には、機械や建材、紙、繊維製品などが対象となる。関税率の引き下げは、企業にとってはコスト削減につながるため、輸出増とそれに伴う生産の増加が期待されよう。

今回は、公表されている品目とその関税率の引き下げ幅から、対象となる項目の対中輸出額と平均的な関税率の引き下げ幅を**図表4**にまとめた。対象となる項目は総額で1.6兆円、平均的な関税率引き下げ幅は▲3.3%pt、金額にすると▲400億円と試算される。

また、企業は10月の生産や出荷、輸出を控え、11月分を増加させる可能性があるが、今回の関税引き下げ額は7月1日に引き下げられた日用品、自動車の関税引き下げ額<sup>1</sup>（1,271億円程度）と比較すると、3分の1程度である。7月は、品目ベースでは上述のような振れが見られたものの、全体では大きな変動がなかったことから、今回についても同様となる可能性が高い。

図表4：中国の関税引き下げの概要と日本の輸出への影響

HSコード	対象品目総額 (億円)	現行平均税率 (%)	引き下げ後 平均税率 (%)	平均 引き下げ幅 (%pt)	関税 引き下げ額 (億円)	
03	魚並びに甲殻類、軟体動物など	0	17.0	9.8	▲7.2	▲0.0
13	ラック並びにガム、樹脂その他の植物性の液汁及びエキス	4	19.7	9.5	▲10.1	▲0.4
20	野菜、果実、ナットその他植物の部分の調製品	0	18.9	7.7	▲11.2	▲0.0
21	各種の調製食品	73	27.1	12.0	▲15.1	▲11.0
25	塩、硫黄、土石類、プラスター、石灰及びセメント	2	6.4	5.0	▲1.4	▲0.0
27	鉱物性燃料及び鉱物油並びにこれらの蒸留物、歴青物質並びに鉱物性ろう	16	10.6	5.0	▲5.6	▲0.9
28	無機化学品及び貴金属、希土類金属、放射性元素又は同位元素の化合物	481	5.7	5.0	▲0.7	▲3.5
29	有機化学品	1	12.8	7.1	▲5.7	▲0.0
30	医療用品	68	5.1	0.0	▲5.1	▲3.4
37	写真用又は映画用の材料	0	23.0	21.7	▲1.2	▲0.0
40	ゴム及びその製品	113	14.0	13.5	▲0.5	▲0.6
41	原皮（毛皮を除く。）及び皮革	4	7.9	6.0	▲1.9	▲0.1
42	革製品及び動物用装着具並びに旅行用具、ハンドバッグ、腸の製品	1	8.0	6.0	▲2.0	▲0.0
44	木材及びその製品並びに木炭	9	9.9	6.7	▲3.2	▲0.3
45	コルク及びその製品	0	8.4	8.0	▲0.4	▲0.0
48	紙及び板紙並びに製紙用パルプ、紙又は板紙の製品	338	7.5	6.0	▲1.5	▲5.1
49	書籍、新聞、絵画その他の印刷物、手書き文書、タイプ文書、設計図及び図案	63	7.5	6.0	▲1.5	▲0.9
50	絹及び絹織物	3	10.0	8.0	▲2.0	▲0.1
51	羊毛、織獣毛、粗獣毛及び馬毛の糸並びにこれらの織物	88	10.0	8.0	▲2.0	▲1.8
52	綿及び綿織物	179	10.1	8.0	▲2.1	▲3.8
53	その他の植物性繊維織物及びその織物並びに紙糸及びその織物	10	8.9	7.0	▲1.8	▲0.2
54	人造繊維とその製品	478	10.0	8.0	▲2.0	▲9.6
55	人造繊維の短繊維及びその織物	109	10.3	8.0	▲2.3	▲2.6
56	ウォッディング、フェルト、不織布及び特殊糸並びにひも、絹及びケーブル	315	10.1	8.0	▲2.1	▲6.5
58	特殊織物、タフテッド織物類、レース、つづれ織物、トリミング及びししゅう布	79	10.0	8.0	▲2.0	▲1.6
59	染み込ませ、塗布し、被覆し又は積層した紡織用繊維の織物類	194	10.0	8.0	▲2.0	▲3.9
60	メリヤス編物及びクロセ編物	292	10.1	8.0	▲2.1	▲6.3
68	石、プラスター、セメント、石綿、雲母その他これらに類する材料の製品	315	14.5	10.6	▲3.9	▲12.2
69	陶磁製品	3	24.4	15.0	▲9.4	▲0.3
70	ガラス及びその製品	760	15.3	11.9	▲3.5	▲26.4
71	天然又は養殖の真珠、貴石、貴金属及び貴金属を張つた金属とこれらの製品	80	27.0	8.8	▲18.2	▲14.6
72	鉄鋼	519	9.9	6.0	▲3.9	▲20.4
73	鉄鋼製品	857	10.7	8.0	▲2.7	▲23.0
74	銅及びその製品	63	14.7	8.9	▲5.7	▲3.6
76	アルミニウム及びその製品	73	11.8	8.0	▲3.8	▲2.8
81	その他の単金属及びサーメット並びにこれらの製品	20	8.4	8.0	▲0.4	▲0.1
82	単金属製の工具、道具、刃物、スプーン及びフォーク並びにこれらの部分品	33	10.0	8.0	▲2.0	▲0.7
83	各種の単金属製品	135	11.3	8.9	▲2.4	▲3.2
84	原子炉、ボイラー及び機械類並びにこれらの部分品	6,047	10.0	8.4	▲1.6	▲99.4
85	電気機器及びその部分品、録音機、音声再生機、映像・音声の記録用、再生用の機器	3,737	10.9	8.6	▲2.3	▲86.5
86	鉄道用又は軌道用の機関車及び車両とこれらの部分品、線路用装備品及びその部分品	1	10.5	10.0	▲0.5	▲0.0
87	鉄道用及び軌道用以外の車両並びにその部分品及び付属品	124	14.3	6.3	▲7.9	▲9.9
90	光学機器、写真用機器、映画用機器、測定機器、検査機器、精密機器及び医療用機器	511	11.3	6.9	▲4.3	▲22.1
92	楽器並びにその部分品及び付属品	33	17.5	10.0	▲7.5	▲2.5
94	家具、寝具、マットレス、マットレスサポート、クッション、照明器具	197	10.1	6.1	▲4.0	▲8.0
96	雑品	51	11.1	8.0	▲3.1	▲1.6
計	16,479	11.6	8.3	▲3.3	▲400.0	

(注1) HSコード2桁で集計。対象品目がゼロの項目は省略。表記についても適宜省略しているため関税率表とは一致しない。

(注2) HSコード6桁ベースで計算。関税率は、2017年の輸出額で加重平均して計算。

(出所) JETRO、中国財政部資料、財務省統計より大和総研作成

<sup>1</sup> 小林俊介、廣野洋太「日本経済見通し：2018年6月 - I. 米中関税合戦は延長戦入り、日本経済・企業収益はどうか？ II. 消費増税の影響を巡る過少推計レトリックと論点整理 III. 経済見通しを改訂：2018年度+1.0%、2019年度+0.8%」（大和総研レポート、2018年6月20日）を参照。

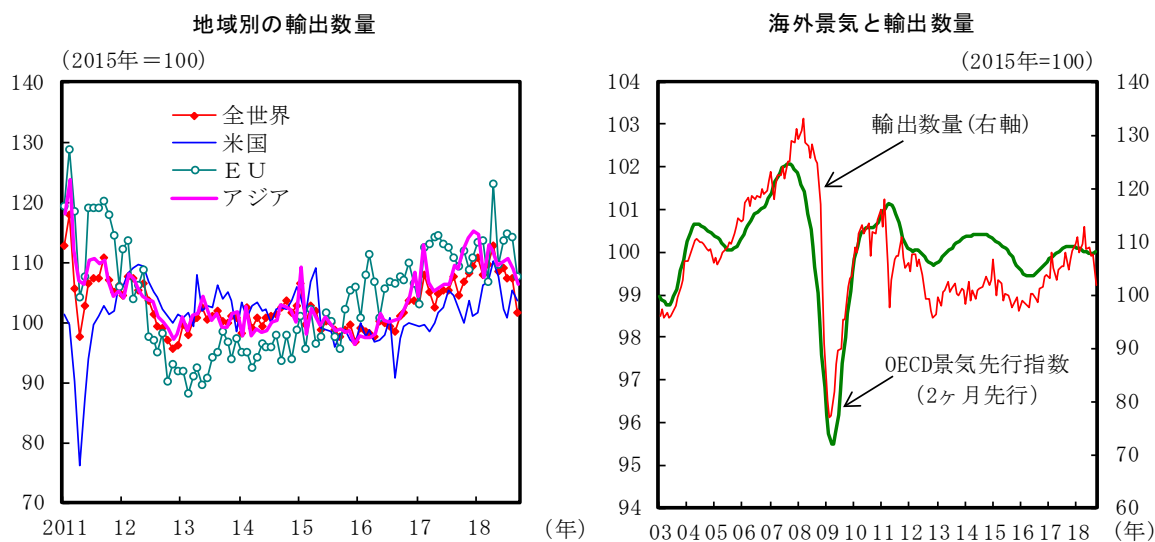
[https://www.dir.co.jp/report/research/economics/outlook/20180620\\_020171.html](https://www.dir.co.jp/report/research/economics/outlook/20180620_020171.html)

## 輸出数量の見通しは横ばい

先行きの輸出数量について、横ばいで推移するとみている。2017年度の輸出は、米国を中心とした在庫循環上の回復や共産党大会を控えた中国経済の加速に支えられてきたが、これらのプラス要因はすでに剥落している。ただし、米国の減税効果という新たなプラス要因が顕在化するため、海外経済が大きく腰折れする可能性は低い。

また米国を中心とする保護貿易の流れには注意が必要である。米中間の貿易摩擦の激化もさることながら、日本にとっての懸念材料は米国との物品貿易協定（TAG）に向けた二国間交渉である。日本側は、TAGはFTAとは異なると主張する一方、米国側ではFTA締結を目指すといった発言が見られるなど、見解には相違がある。日本にとって最重要課題であった米国の自動車関税については当面棚上げとなったが、先行きには注意が必要である。

図表5：地域別の輸出数量、海外景気と輸出数量（季節調整値）



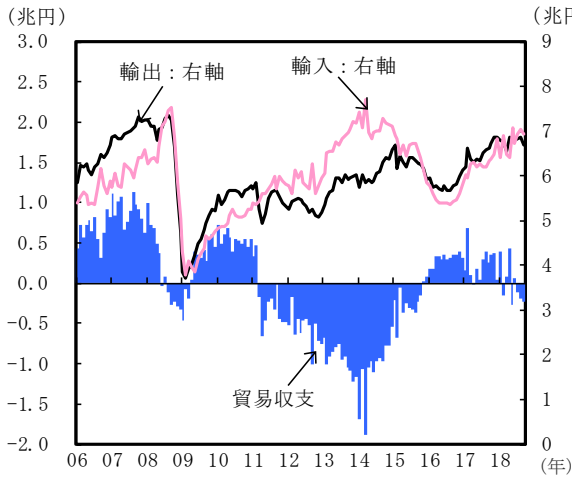
(注1) OECD景気先行指数(CLI)はOECD諸国とBRICsなど非加盟6ヶ国を集計したベース。

(注2) 輸出数量の季節調整は大和総研。

(出所) 財務省、OECD統計より大和総研作成

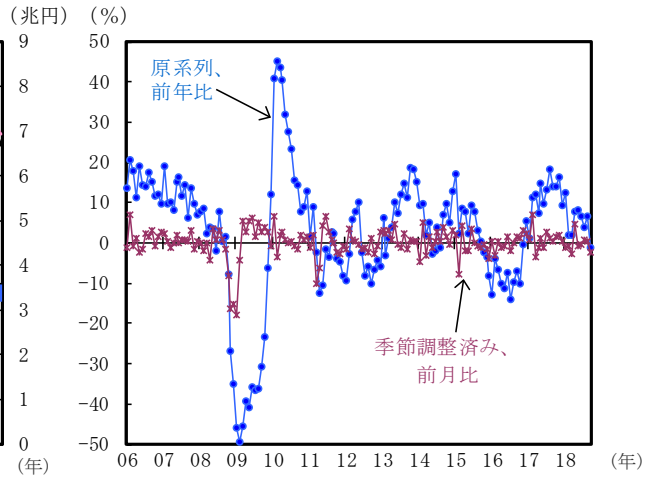
概況

輸出入と貿易収支 (名目、季節調整値)

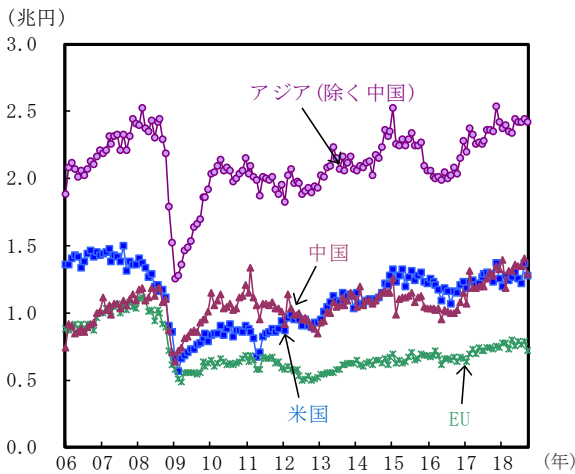


(出所) 財務省統計より大和総研作成

輸出額の変化率 (名目)

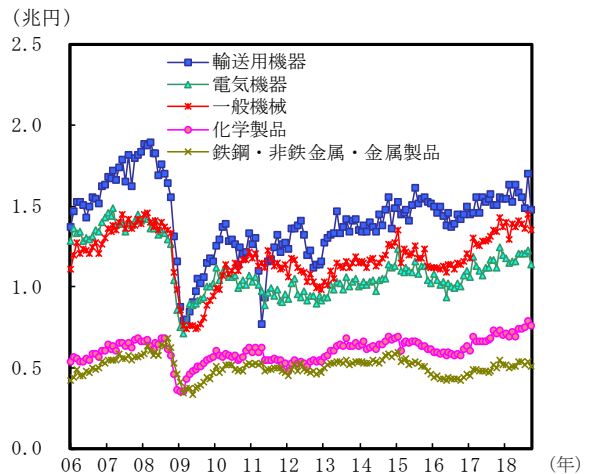


主要地域・国別の輸出額 (名目、季節調整値)

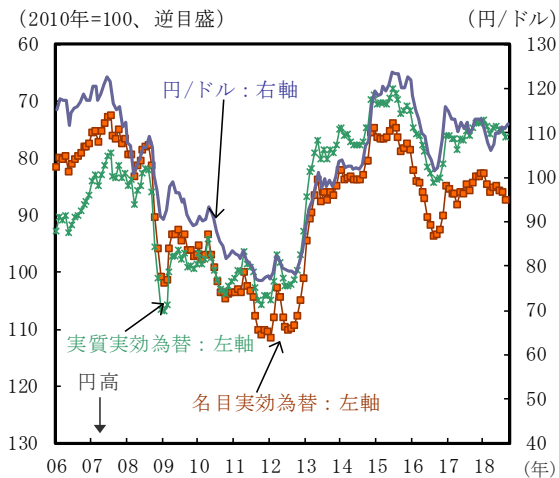


(注) 季節調整は大和総研。  
(出所) 財務省統計より大和総研作成

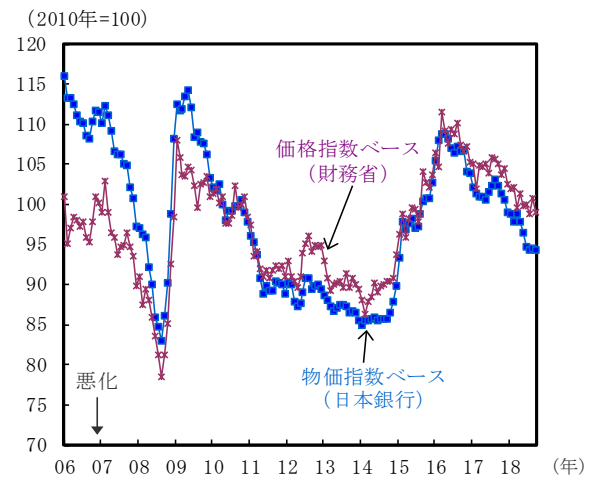
主要商品別の輸出額 (名目、季節調整値)



為替相場



交易条件



(注) 交易条件は、輸出価格指数/輸入価格指数 (輸出物価指数/輸入物価指数)。

(出所) 財務省、日本銀行統計より大和総研作成

輸出金額 内訳								
	2018/04	2018/05	2018/06	2018/07	2018/08	2018/09		
	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	構成比%	寄与度%pt
総額	7.8	8.1	6.7	3.9	6.6	▲1.2	100.0	▲1.2
食料品	25.8	25.7	21.7	21.7	20.1	18.5	0.9	0.1
原料品	4.2	13.5	10.4	6.8	0.7	▲2.7	1.3	▲0.0
鉱物性燃料	57.4	33.7	17.3	43.1	7.6	32.9	2.1	0.5
化学製品	5.0	12.5	11.6	10.9	15.1	3.4	10.8	0.3
原料別製品	4.1	10.7	9.5	7.1	10.5	▲2.2	10.8	▲0.2
鉄鋼	1.2	7.8	7.2	11.2	13.4	0.6	3.9	0.0
非鉄金属	10.4	23.7	19.4	9.6	13.7	▲7.1	1.8	▲0.1
金属製品	8.8	7.7	13.4	5.7	9.6	▲2.3	1.6	▲0.0
一般機械	8.6	9.9	8.4	4.8	9.7	0.1	19.8	0.0
電気機器	4.8	11.3	8.1	7.1	5.6	▲2.4	18.0	▲0.4
半導体等電子部品	4.3	8.4	9.0	8.0	4.2	▲1.7	5.2	▲0.1
IC	7.9	7.7	9.3	9.7	4.4	▲3.4	3.6	▲0.1
映像記録・再生機器	▲13.1	▲1.5	5.0	▲8.9	▲11.8	▲2.2	0.5	▲0.0
音響・映像機器の部分品	▲24.2	6.7	▲14.4	17.1	▲23.7	▲12.9	0.3	▲0.0
電気回路等の機器	▲1.1	4.3	1.6	1.8	8.2	▲5.8	2.7	▲0.2
輸送用機器	11.8	1.7	2.7	▲4.0	8.4	▲2.1	22.9	▲0.5
自動車	15.3	7.1	▲1.0	▲2.8	5.3	▲4.7	14.9	▲0.7
自動車の部分品	0.3	10.4	8.4	0.8	3.8	3.3	5.2	0.2
その他	4.5	2.2	2.0	▲0.4	▲8.5	▲7.4	13.3	▲1.1
科学光学機器	▲6.5	▲3.8	▲3.0	▲2.6	▲2.4	▲3.3	3.0	▲0.1

米国向け輸出金額 内訳								
	2018/04	2018/05	2018/06	2018/07	2018/08	2018/09		
	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	構成比%	寄与度%pt
総額	4.3	5.8	▲0.9	▲5.2	5.3	▲0.2	100.0	▲0.2
食料品	1.8	3.5	10.8	6.6	18.8	6.2	0.7	0.0
原料品	▲31.7	4.2	25.3	▲7.4	7.4	▲5.5	0.4	▲0.0
鉱物性燃料	124.7	53.1	131.0	61.3	62.7	▲50.7	0.2	▲0.2
化学製品	4.8	13.0	9.9	18.1	30.3	3.9	6.3	0.2
原料別製品	▲0.4	11.1	1.8	0.8	4.3	▲2.9	6.2	▲0.2
鉄鋼	13.7	18.6	▲17.1	▲12.0	▲15.9	▲13.6	1.1	▲0.2
非鉄金属	▲4.3	28.9	31.7	20.0	33.7	4.7	0.7	0.0
金属製品	▲9.5	▲2.5	1.5	10.3	12.2	▲1.3	1.6	▲0.0
一般機械	2.4	3.1	0.1	▲8.3	8.5	0.4	22.9	0.1
電気機器	0.8	10.9	6.4	3.8	4.0	1.1	14.2	0.2
半導体等電子部品	▲3.3	5.2	7.8	1.4	▲2.3	▲8.7	1.5	▲0.1
IC	▲11.0	3.2	▲7.2	▲4.8	▲9.3	▲12.2	0.8	▲0.1
映像記録・再生機器	1.1	▲2.0	25.3	▲4.0	▲4.1	33.4	0.9	0.2
音響・映像機器の部分品	▲18.2	▲20.0	▲9.1	49.9	▲63.0	3.0	0.2	0.0
電気回路等の機器	▲10.5	3.1	5.8	0.7	10.3	0.2	1.5	0.0
輸送用機器	5.3	▲0.9	▲9.9	▲11.8	▲0.9	▲0.5	38.7	▲0.2
自動車	10.0	▲3.9	▲12.0	▲12.1	▲1.5	0.2	29.2	0.0
自動車の部分品	▲2.7	12.6	▲0.1	▲15.2	▲1.5	▲5.4	6.2	▲0.3
その他	11.9	19.7	9.3	▲3.6	3.8	▲1.5	10.5	▲0.2
科学光学機器	4.5	3.5	▲3.2	▲7.0	2.8	0.9	2.2	0.0

EU向け輸出金額 内訳								
	2018/04	2018/05	2018/06	2018/07	2018/08	2018/09		
	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	構成比%	寄与度%pt
総額	14.1	0.7	9.3	6.4	7.1	▲4.1	100.0	▲4.1
食料品	30.9	▲30.0	10.7	18.1	3.8	▲0.8	0.3	▲0.0
原料品	21.6	6.4	19.3	22.1	9.2	▲1.7	1.0	▲0.0
鉱物性燃料	146.8	57.4	15.7	126.2	47.2	79.7	0.5	0.2
化学製品	20.5	10.4	14.5	15.1	17.4	13.3	9.7	1.1
原料別製品	14.5	17.8	12.8	17.4	12.5	▲2.3	6.5	▲0.1
鉄鋼	11.6	20.0	▲0.3	22.8	25.7	▲11.6	0.8	▲0.1
非鉄金属	26.5	22.0	22.5	40.4	33.4	32.1	1.0	0.2
金属製品	14.6	8.2	7.6	11.0	17.0	▲2.3	1.5	▲0.0
一般機械	3.3	10.5	13.1	7.8	5.4	▲0.4	24.6	▲0.1
電気機器	10.0	13.4	8.8	7.3	2.9	▲0.1	18.4	▲0.0
半導体等電子部品	1.6	4.7	3.6	▲0.7	▲4.3	▲8.6	2.3	▲0.2
IC	▲6.0	▲9.8	▲7.7	▲10.2	▲14.8	▲18.7	1.1	▲0.2
映像記録・再生機器	▲14.6	2.4	8.3	▲13.2	▲17.0	▲12.3	0.7	▲0.1
音響・映像機器の部分品	22.8	2.3	19.3	8.4	▲7.4	▲9.8	0.2	▲0.0
電気回路等の機器	7.4	11.1	9.8	3.3	▲3.0	▲10.0	1.8	▲0.2
輸送用機器	23.0	▲15.8	6.2	▲7.3	17.8	▲17.6	22.4	▲4.6
自動車	24.1	15.8	▲17.4	▲7.5	18.2	▲23.8	12.8	▲3.8
自動車の部分品	3.5	22.6	5.7	▲2.1	1.2	▲1.2	6.5	▲0.1
その他	13.9	▲7.4	4.7	10.7	▲9.3	▲3.5	16.5	▲0.6
科学光学機器	4.8	3.8	3.6	▲1.5	1.0	5.1	3.4	0.2

(注) 小数点の丸め方による影響で公表資料と完全には一致しない項目がある。

(出所) 財務省統計より大和総研作成



アジア向け輸出金額 内訳								
	2018/04	2018/05	2018/06	2018/07	2018/08	2018/09		
	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	構成比%	寄与度%pt
総額	6.0	9.8	8.6	8.0	6.9	0.9	100.0	0.9
食料品	31.5	38.8	25.5	26.6	21.9	22.6	1.3	0.2
原料品	5.7	14.8	7.9	7.0	▲2.0	▲3.3	2.0	▲0.1
鉱物性燃料	44.4	61.5	▲15.5	29.9	▲10.0	47.7	2.1	0.7
化学製品	4.4	12.0	11.4	9.2	15.1	2.8	14.4	0.4
原料別製品	6.6	11.2	13.3	8.4	13.6	▲0.6	13.7	▲0.1
鉄鋼	3.8	7.0	12.8	13.6	20.6	5.8	5.6	0.3
非鉄金属	11.3	23.9	19.5	7.7	11.6	▲9.2	2.7	▲0.3
金属製品	14.4	11.2	18.6	4.2	6.2	▲5.1	1.7	▲0.1
一般機械	12.8	11.8	9.4	9.2	12.1	1.4	19.4	0.3
電気機器	4.3	11.0	8.2	8.4	5.7	▲3.5	22.1	▲0.8
半導体等電子部品	5.2	8.7	9.3	9.0	5.0	▲0.7	8.4	▲0.1
IC	9.7	8.9	11.0	11.3	5.9	▲2.3	6.0	▲0.1
映像記録・再生機器	▲17.2	▲3.9	▲5.1	▲7.8	▲12.7	▲16.0	0.4	▲0.1
音響・映像機器の部分品	▲31.7	7.7	▲22.5	0.2	▲16.7	▲17.4	0.5	▲0.1
電気回路等の機器	▲0.5	3.2	0.4	2.0	9.6	▲5.7	3.7	▲0.2
輸送用機器	0.6	5.0	5.7	6.4	1.2	6.8	9.4	0.6
自動車	9.5	15.2	3.3	7.1	10.8	3.8	4.5	0.2
自動車の部分品	1.5	6.2	19.4	11.0	6.5	14.3	4.2	0.5
その他	▲0.5	▲1.0	4.3	2.7	▲5.3	▲1.9	15.5	▲0.3
科学光学機器	▲11.6	▲7.6	▲4.3	▲1.4	▲4.0	▲6.2	3.7	▲0.3

中国向け輸出金額 内訳								
	2018/04	2018/05	2018/06	2018/07	2018/08	2018/09		
	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	構成比%	寄与度%pt
総額	10.9	13.9	11.1	11.9	12.1	▲1.7	100.0	▲1.7
食料品	79.7	86.6	69.8	64.7	34.7	76.5	0.6	0.3
原料品	▲7.3	14.3	▲2.4	▲2.6	▲12.4	▲9.4	2.4	▲0.2
鉱物性燃料	▲22.1	70.9	▲17.0	70.8	89.0	77.6	1.5	0.6
化学製品	8.9	13.8	14.2	12.8	17.2	0.5	15.4	0.1
原料別製品	9.1	4.9	9.9	▲0.5	9.8	▲6.5	10.8	▲0.7
鉄鋼	▲2.9	▲8.9	1.9	3.7	13.8	▲1.1	3.5	▲0.0
非鉄金属	41.4	10.8	26.0	▲11.5	11.3	▲16.0	2.3	▲0.4
金属製品	12.7	11.1	19.2	4.6	11.8	▲6.4	1.7	▲0.1
一般機械	36.6	30.5	22.9	27.8	29.0	12.1	23.4	2.5
電気機器	5.3	12.8	10.4	5.8	0.4	▲14.5	21.4	▲3.6
半導体等電子部品	11.0	10.6	27.4	13.6	▲3.8	▲23.1	6.0	▲1.8
IC	17.6	9.3	35.5	16.6	▲7.3	▲29.0	4.1	▲1.7
映像記録・再生機器	▲10.8	7.5	▲3.6	▲7.8	▲7.2	▲10.3	0.6	▲0.1
音響・映像機器の部分品	▲47.4	23.0	▲23.1	13.3	▲21.1	▲31.1	0.5	▲0.2
電気回路等の機器	0.2	6.2	0.5	▲1.0	8.9	▲15.6	4.0	▲0.7
輸送用機器	1.4	6.9	8.8	17.0	16.8	16.8	11.0	1.6
自動車	9.7	0.3	▲2.5	30.3	25.9	16.4	4.7	0.6
自動車の部分品	▲3.8	11.5	14.3	8.6	10.5	17.9	6.2	0.9
その他	▲5.1	▲2.3	▲6.0	2.2	▲0.2	▲14.1	13.3	▲2.1
科学光学機器	▲14.8	▲4.0	▲10.0	▲3.6	▲2.3	▲12.4	5.6	▲0.8

(注) 小数点の丸め方による影響で公表資料と完全には一致しない項目がある。

(出所) 財務省統計より大和総研作成